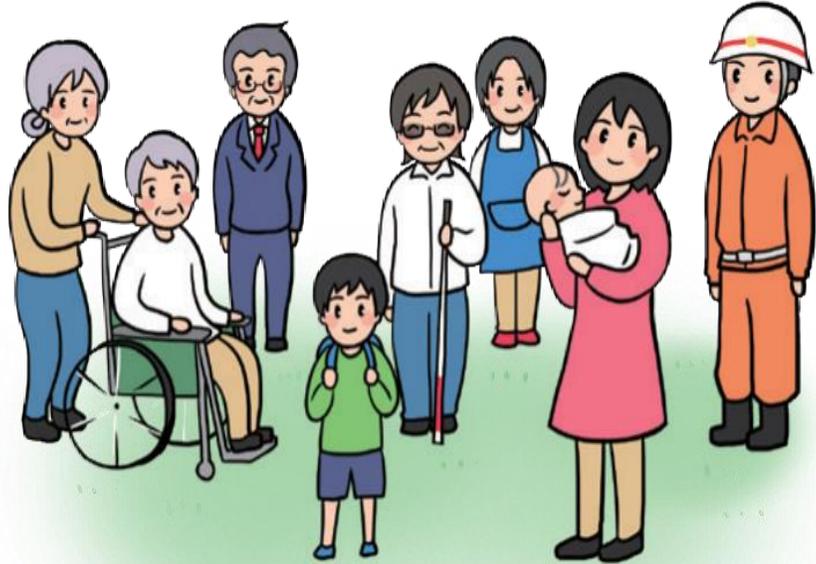


第4回 流山市在宅医療介護連携会議（1/30開催）



# 福祉と防災の連携について

- ・ 地域における支え合い活動
- ・ 個別避難計画

流山市 健康福祉部 福祉政策課

04-7196-6605（課直通）

# 流山市の被害予測 -安全と判断できる場合は在宅避難を推奨-

## 洪水ハザードマップ

R7改正  
土砂災害警戒区域  
市内38か所増加  
(計52か所)

新川耕地周辺  
西深井・下花輪・北ほか

流山本町周辺  
流山1～7丁目ほか

河川周辺だけでなく  
アンダーパスや土地の  
高低による内水氾濫  
にも注意  
※内水ハザードマップ

市内の多くは落ち着いて事前に行動できる地域です

東深井北部  
このす台北部

南流山・木周辺

## 地震ハザードマップ

地域の安全性だけ  
でなく個々の住宅  
の耐震化も重要

宮園・鱈ヶ崎周辺  
坂川周辺

長崎地区周辺

# 災害に備えて知っておきたいこと（支援者編）

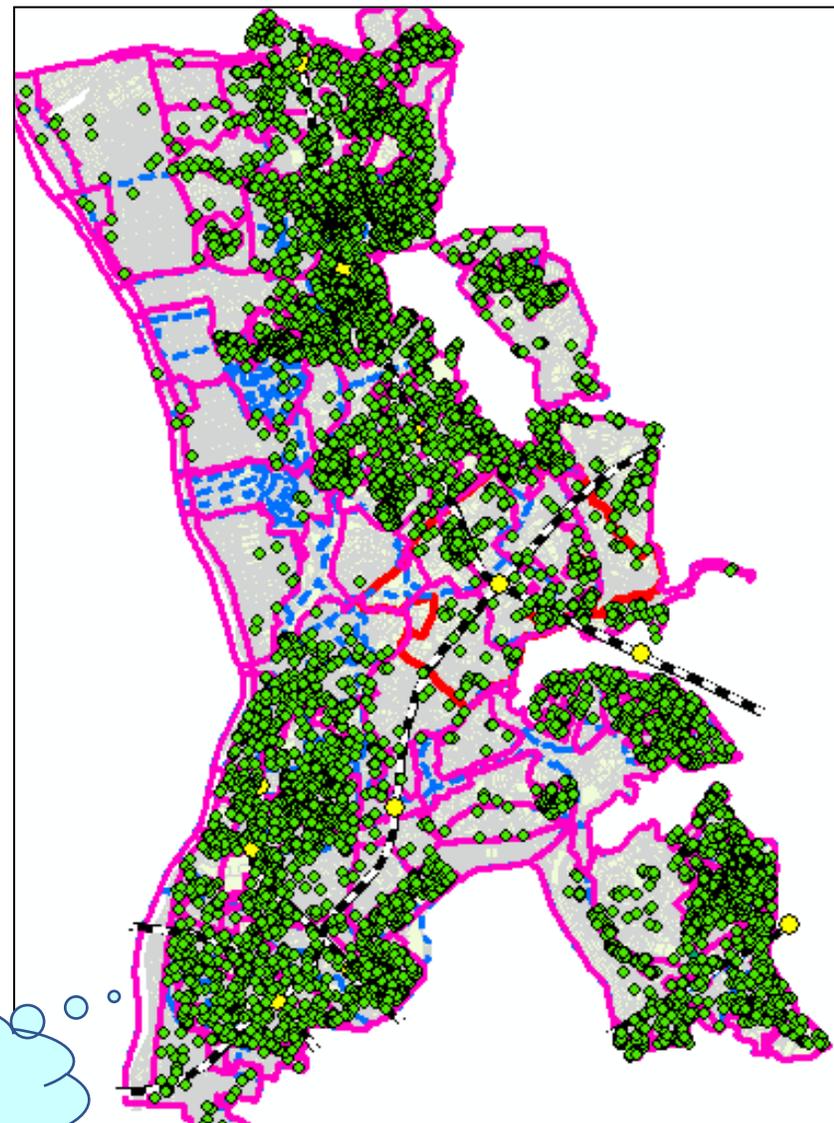
## ○流山市ハザードマップに基づく災害リスク

- 洪水、内水、地震、土砂災害警戒区域
- 災害発生予測（防災無線、河川カメラ等）
- 要配慮者施設の被災リスク（水防法との関連）

## ○災害に備えた地域診断と地域連携

- 災害時の生きる地域資源  
（避難所、自治会、民生委員等）
- 機関型BCP、連携型BCP、地域BCP

水害リスクの高い地域  
の居住者も多い



避難行動要支援者名簿（地域支え合い活動）の同意者12,232人の居住分布

# 災害に備えて知っておきたいこと（支援者編）

## ○自助・共助を高める事前取組み

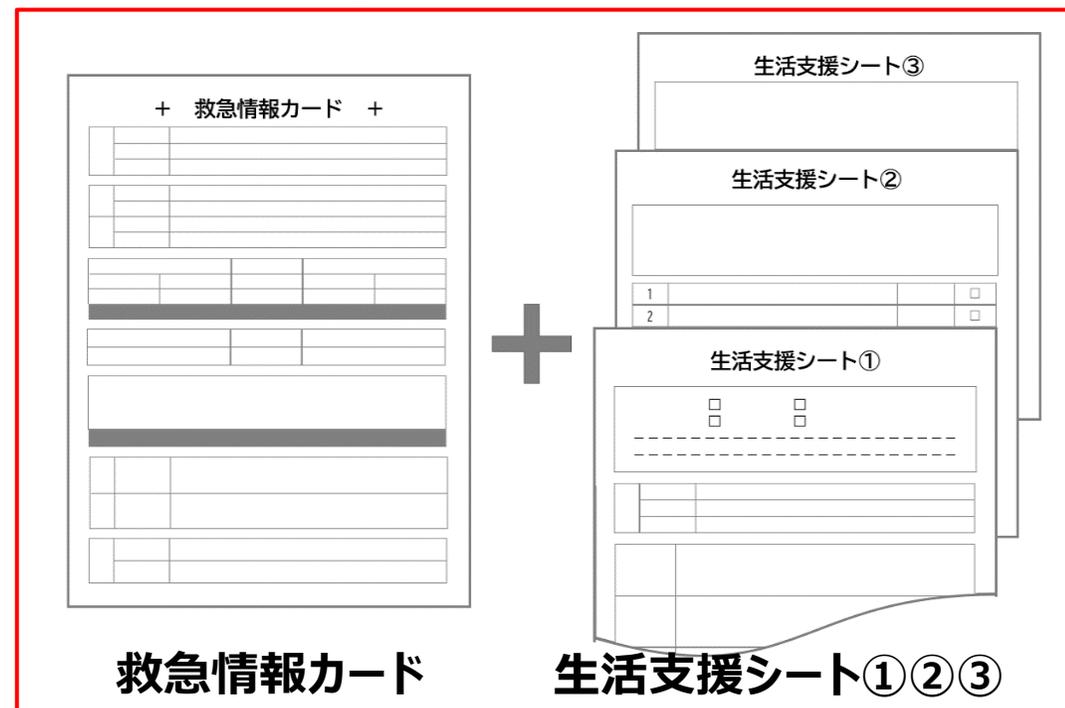
- 最低3日間（できれば1週間以上）の災害用備蓄・薬
- 災害時の情報収集方法  
（インターネット、117、市公式LINE、防災無線）
- マイタイムライン、個別避難計画

障害・要介護の状況、  
災害リスクや緊急連絡先を事前に記載し  
共有しておきます

## ○利用者ごとの想定・訓練しておくこと

- 利用者毎の災害時リスク判定  
（認知機能、独居、老々介護等）
- サービス担当者会議を活用したリスク共有
- 在宅避難時に想定される課題
- 自機関だけでの対応が難しい場合の対応

## 個別避難計画（相談援助職向け作成補助金あり）



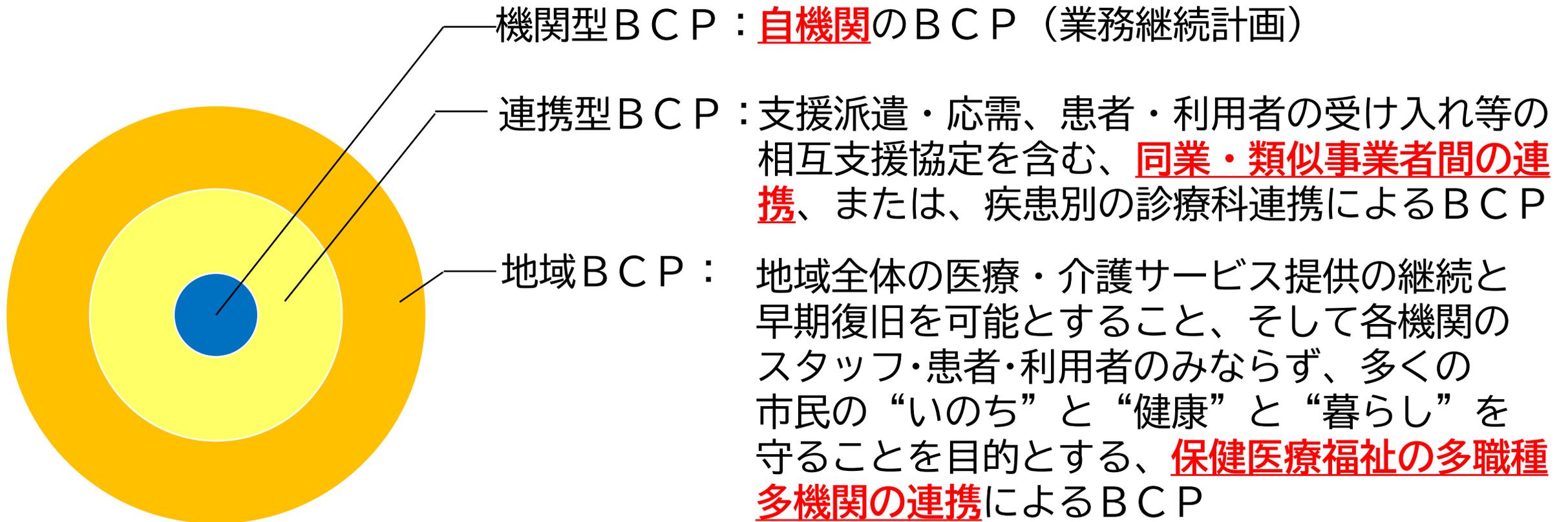
# 研修の目的

- ① 流山市の地域BCPについて把握する。  
(活動趣旨、機関型・連携型との関連性など)
- ② 災害時に、要支援者に起きうる状況、自身及び自事業所がどのように行動すべきか・行動できるかを明確にする。
- ③ いつ起きるかわからない災害に対して、地域全体で備える思考を育て、災害対応能力を皆で高める。

『地域BCP』が災害時に最大限機能できるよう皆で考えましょう

# 流山市版・地域BCPの策定に向けて

- 災害発生時に急増する医療・介護サービスの提供体制を確保し、災害関連死等を防ぐ。
- 地域連携の相互支援により、地域全体の医療・介護サービスの提供体制を継続する。
- 安否確認後に必要となる人的・物的支援の一助となるよう事前の体制を構築したい。



# ケース対応訓練

（本人・世帯の状況）

- 80歳夫、75歳妻の二人暮らし、他県に息子在住だが疎遠
- 妻はご近所さんと良好な関係です。
- 夫はCOPD(慢性閉塞性肺疾患)による在宅酸素療法。(要電源)
- 夫は要介護1、妻は要支援1。
- 夫は週2回デイサービス、週1回訪問看護。妻はサービス利用なし。
- 流山7丁目在住、古い木造家屋に住んでいます。

## 平常時にして想定・訓練しておいた方がよい事は？

- 利用者毎の災害時リスク判定  
（認知機能、独居、老々介護等）
- サービス担当者会議を活用したリスク共有
- 在宅避難時に想定される課題
- 自機関だけでの対応が難しい場合の対応

# ケース対応訓練・想定

（本人・世帯の状況）

- 80歳夫、75歳妻の二人暮らし、他県に息子在住だが疎遠
- 妻はご近所さんと良好な関係です。
- 夫はCOPD(慢性閉塞性肺疾患)による在宅酸素療法。(要電源)
- 夫は要介護1、妻は要支援1。
- 夫は週2回デイサービス、週1回訪問看護。妻はサービス利用なし。
- 流山7丁目在住、古い木造家屋に住んでいます。

## 災害が発生した場合どうなりますか？

- 1月30日午前10時・晴れ
- 地震(震度6強)
- 2人とも在宅しています。
- 自宅は倒壊していません。(今後要調査)
- 電柱倒壊により電気供給が不安定です。

今回は最もシンプルな想定ですが…

- 停電が発生した場合(長期化の場合)
- 家屋が倒壊した場合
- デイサービスにいる時間に発災した場合
- 夜間に発災した場合

# 訓練想定（機関型BCP）

発災0日から3日

## ①事業所の安全確保

視点：職員・家族の安全、施設の稼働、サービス提供

## ①安否確認（事業所・ケアマネジャーの役割分担）

視点：生死、居場所、その他（体調・支援者・配慮事項など）

## ②生活維持判定（在宅避難の継続は可能ですか？必要な物資は？）

視点：日頃のアセスメント情報、身の安全、物資・支援者、体調

## ③サービス調整（※避難所でもサービス提供できることが望ましい）

視点：地域内のサービス稼働状況・事業者間連携

事前に取り組んでおきたいこと

- ・被災時の連絡先、連絡方法
- ・利用者毎の災害時リスク判定
- ・業務の整理
- ・備蓄品の対応 など…

# 訓練想定（連携型BCP・地域型BCP）

発災概ね3日～

## ①在宅生活が難しい場合の対応

視点：福祉避難所への移送、緊急入所・入院

## ②地域の事業・サービス提供体制

視点：事業所の経営判断

○安定稼働可

▲応援人員があれば可

×施設損傷・スタッフ不足による不可

## ③新たな・急激なニーズの増加

視点：福祉避難所の開設、車中泊者の増加

事前に取り組んでおきたいこと

- ・同一法人内での想定
- ・地域内での類似事業者間連携
- ・医療機関や自治会等の地域連携
- ・連携に関する事前協定 など…

## 地域の福祉人材確保

- ・同一系列内・事業内の相互協力
  - ・地域ボランティア
- ※外部ボランティアの受援まで3日間程度をどう耐えるか

## 雇用の維持

- ・就業先の紹介（職員の収入確保）

# グループワーク

## ・生活維持判定(在宅避難の継続は可能ですか？必要な物資は？)

医療依存の高い夫婦のため、定期的なサービスが必要です。

薬や電源が必須です。酸素ボンベなどの医療資材も必要です。

⇒停電の長期化、体調の悪化、物資の不足により在宅避難は難しいです。

## ・在宅生活が難しい場合の対応(どんな支援が必要ですか？誰が？)

一般避難所の要配慮スペースでの対応は難しそうです。

配慮された福祉避難所への移動や更なる体調悪化の場合は緊急入所・入院が必要です。

⇒移送先の調整や移送する車やスタッフの支援が必要です。

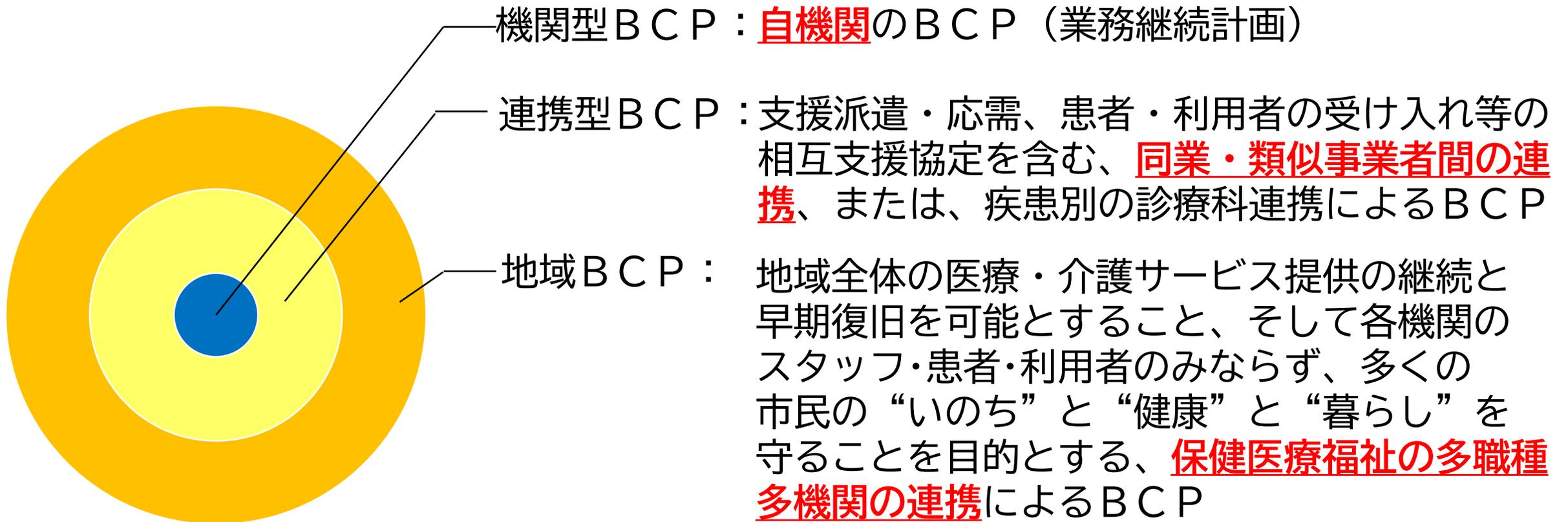
## ・新たな・急激なニーズの増加(福祉避難所の開設等に対応しますか？)

高齢者施設を中心に福祉避難所が開設されますが、通常業務と同時並行は困難です。

⇒支援者や従事スタッフが新たに必要です。

# 流山市版・地域BCPの策定に向けて

- 災害発生時に急増する医療・介護サービスの提供体制を確保し、災害関連死等を防ぐ。
- 地域連携の相互支援により、地域全体の医療・介護サービスの提供体制を継続する。
- 安否確認後に必要となる人的・物的支援の一助となるよう事前の体制を構築したい。



# 地域の防災力を高める地域BCP

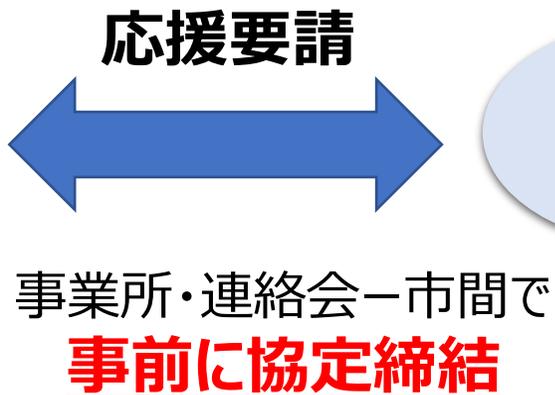
▶災害時における社会福祉事業者間の地域連携に関する協定

介・入所施設

介・訪問系  
サービス

介・通所系  
サービス

介・相談支援  
(ケアマネ)



流山市

応援依頼の取りまとめ  
応援要請・マッチング  
安否確認情報の集約  
福祉避難所の開設調整

応援依頼

★  
安否確認  
応援人材派遣  
車両等の提供  
物資の提供

被災施設  
被災者

地震・風水害  
電気、ガス、水等  
のライフライン停止

## 平常時：地域内連携を推進

- ・災害対応、感染対応に関する知識や経験共有
- ・研修の実施
- ・個別避難計画の作成推進
- ・情報伝達手段の浸透

災害時応援の費用負担

- ・福祉サービス給付（特例含む）
- ・災害救助法による実費弁償
- ・応援依頼元の事業者負担
- ・いずれも対応できない場合は市負担

## 災害時：地域BCPに定める相互協力内容

- ① 人工呼吸器を利用する医療依存度または電源依存度の高い者、要介護認定者、障害者等を行う**安否確認**
- ② 直ちに入院及び入所が必要な者または福祉避難所への移送が必要な者に対する**搬送支援（車両の提供）**
- ③ 後方支援医療機関や市外施設及び避難所への**搬送支援**
- ④ 被災した事業者及び福祉避難所への**人材や物資の支援**
- ⑤ **在宅避難者等**への医療・介護サービスの提供（車中泊含む）

# 地域BCPのタイムライン

1  
平常時から  
連携・協力体制を  
地域内で築いておく  
(協定・訓練・研修)

地震・風水害  
電気、ガス、水等  
のライフライン停止

## 機関型BCP

事業継続の可否（職員の安否確認・施設の損傷）  
利用者の安否確認（市への情報提供）

予測される事

- ・避難所生活、車中泊を余儀なくされる要支援者
  - ・在宅避難や避難所生活の長期化に耐えられなくなる要支援者
  - ・事業継続困難となった事業所（※）の要支援者
- ※事業所スタッフの貴重なマンパワーが活かさない

## 連携型BCP

相互協力による支援派遣、利用者の受け入れ等

## 地域BCP

**市が発動を決定する**

被災事業者の要請  
福祉避難所の開設  
在宅避難者の増加

⇔ 市のマッチング ⇔ 支援可能な事業者

**安否確認  
応援人材派遣  
車両等の提供  
物資の提供**

# 地域BCPのイメージ

1  
平常時から  
連携・協力体制を  
地域内で築いておく  
(協定・訓練・研修)

地震・風水害  
電気、ガス、水等  
のライフライン停止

- ・カナミックの連携型BCP用ID、パスワードを配布（令和7年6月）
- ・必要な訓練や研修を行います。

市

震度6強の地震により、市内で大きな被害が発生しています。地域BCPを発動します。まずは各自のBCP対応をお願いします。  
**安否確認**を行った場合には、市に情報提供してください。

事A

〇〇丁目▲▲番地の流山太郎さん（家族同居）、無事です。  
◇◇丁目◎◎番地の流山花子さん（独居）、人工透析の必要あり、このまま在宅生活は難しいです。

市

◇◇丁目にて在宅生活が難しくなっている女性があります。施設への**入所受入や搬送（スタッフ・車両）の支援**をできませんか。  
**福祉避難所（※特養■）**を開設します。人員の支援できますか。

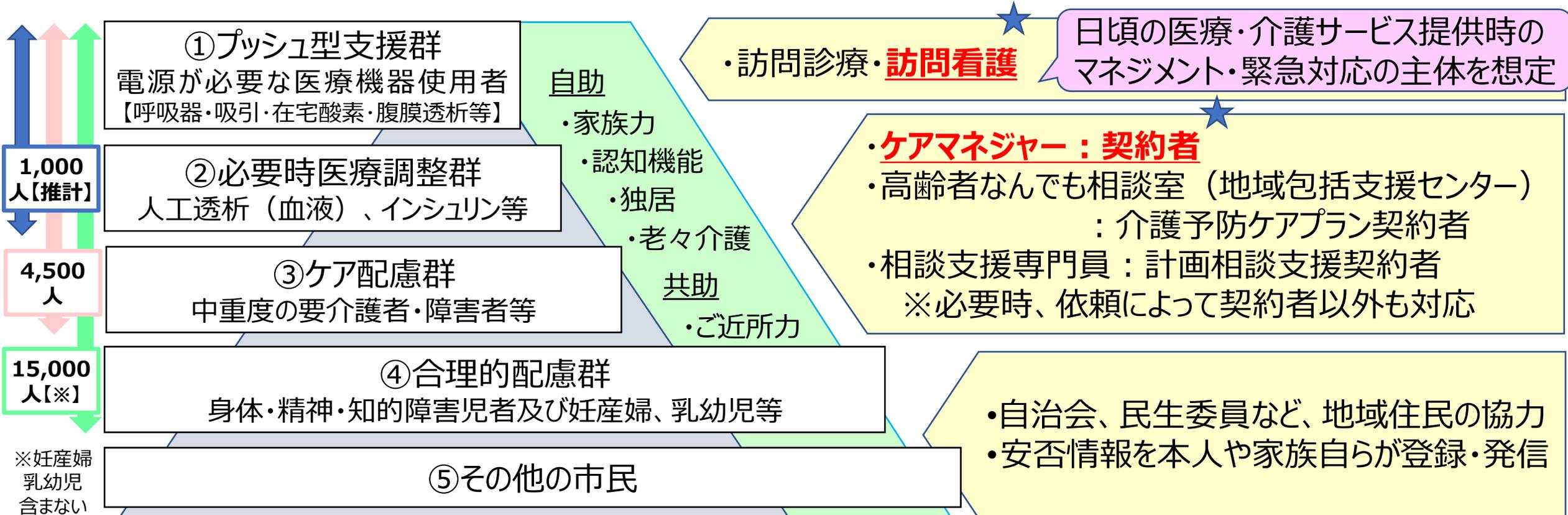
事B

応援スタッフ◆人、物資、車両◎台、3日間提供可能です。

※福祉避難所は、特別養護老人ホーム等の空きスペースを利用し、要配慮高齢者や障害者を受け入れる二次的な避難所です。

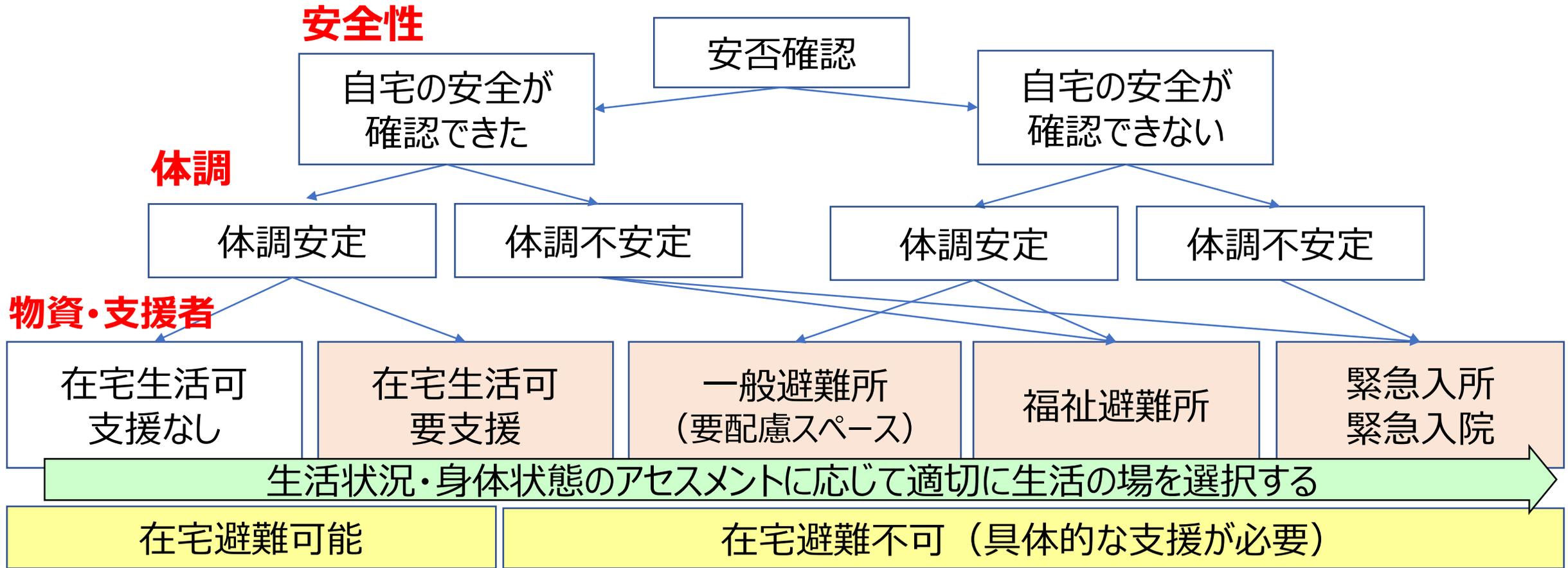
# 福祉専門職との災害時安否確認の情報提供に関する協定

- 機関型BCP（事業所）として収集した安否確認情報について市へ情報提供して頂く。
- 安否確認後、支援者の有無や状態に応じて継続的な人的・物的支援へと早急につなぐ。
- 地域BCPにも含まれる初動対応・きっかけとして重要な対応となるもの。



流山市介護支援専門員連絡会及び流山市訪問看護ステーション所長会と協定締結済み

# 安否確認・避難のながれ



- ①在宅避難者へのサービスや物資搬送など継続的な支援が必要になる。
- ②福祉避難所、緊急入所移送などには、人手＋手段（福祉車両）が必要になる。
- ③一般避難所、福祉避難所、緊急入所等には、外部受援含めて専門職の支援が必要になる。

# 福祉避難所の指定・運営

- 災害発生時に急増する医療・介護サービスの提供体制を確保し、災害関連死等を防ぐ。
- 地域連携の相互支援により、地域全体の医療・介護サービスの提供体制を継続する。
- 安否確認後に必要となる人的・物的支援の一助となるよう事前の体制を構築したい。

福祉避難所 施設名称・施設区分		24時間 対応	優先受入対象
協定済	流山市地域福祉センター	×	
協定済	特別養護老人ホーム等 16か所 + 1	○	
R7.4～	つつじ園・コスモス（障害者通所施設等）	×	知的障害者とその家族
R7.4～	流山市児童発達支援センターつばさ	×	知的障害児とその家族
R7.4～	特別養護老人ホーム月の船	○	医療的ケア児・者とその家族 既に協定済みだが受入対象を明示

## R7.3 優先受入対象の明示（直接避難可）

- ・一般避難所への避難が特に難しい知的障害者や医療的ケア児・者等の直接避難を可とする。

## R7.3 福祉避難所の新規協定（特養時の花・つつじ園・コスモス・流山市児童発達支援センターつばさ）

- ・高齢者施設に限った協定締結から、障害者施設にも拡充する。

# まとめ・考えておきたいこと

①自分、家族、利用者の安全確保

②要配慮者のニーズ把握

(高い医療依存度、要電源、必須薬剤など)

③職場間、利用者との情報伝達手法

④支援者側の精神的身体的負担の軽減

⑤地域全体での医療・福祉サービスの提供体制維持

職場内・職場全体で

業務継続計画に基づいた  
訓練・シミュレーション

として考えることも有効です